

## 三菱商事

私たち m3 班は三菱商事を見学しました。まず三菱商事の説明では、三菱は元々、取引と金融を行っていた仲介事業者で、投資をすることで総合商事になったと分かりました。

また、組織ごとの説明では、生産産業グループ、金属グループ、環境・CSR についてでした。

生活産業グループの説明では、サーモンについてでした。国によって人気のあるサーモンの種類や料理は違います。それでも商品を的確に提供するのは、社員の海外でのコミュニケーション能力が高いからだと思いました。

金属グループの説明では、モザンビークのアルミニウム工場についての話が主でした。利益を得るだけでなく、モザンビークの経済を助けていることが分かりました。しかし、モザンビークをモノカルチャー経済にしているのではないのかとも思いました。また、三菱商事は日本の先生がモザンビークの学校で授業をして、そこで授業を受けた人がアルミニウムの工場で働く、という援助をしていることも分かりました。私は、せっかく教養を身につけたのなら、アルミニウムの工場で働くだけでなく、学校の先生や貿易関係の仕事で働けばよりモザンビークが発展すると思いました。

次に取引三菱商事の社員や社員の OBOG とディスカッションをしました。積極的に質問することができ充実した時間を過ごせました。

一人目のきめださんでは、「日本の常識、世界の常識」というテーマでディスカッションしました。私は日本人と外国人の学歴に対する考え方の違いについて質問しました。それに対してきめださんは、学歴だけに執着せず、何を目標に何をしているのかを意識することが大切だと答えていただきました。何を目標にしているのかはすぐに答えることができますが、その目標のために何をしているのかはすぐに答えることができません。日々自らにこのことを問うようにしていきたいと思いました。また、きめださんに常識の違いについて心がけていることとして、2つ教えていただきました。1つ目は、「自らを反省してから」というものでした。人にばかり矢を向けず、まずは自分に矢を向けることが大切だと教わりました。2つ目は、「それはダメではなく、そのほうが良くないのではないかと考える」というものでした。人を責める前にその相手について理解することが大切だと教わりました。

2人目の三菱商事のOBの方には、人と関わる時にはスマイルを大切にすべきだと教わりました。これから、日々実践していこうと思いました。

今回このような素晴らしい企業を見学することができ、本当に良い経験ができたと思います。この貴重な経験を無駄にしないよう、これからも文武一道を実践していこうと思いました。

## ライオン(株)平井研究所

私たちの班は1日目の午後、ライオン(株)平井研究所さんを訪問させていただきました。私は班長としてアポイントメントを取るのに少々苦労しましたので、その分今回の訪問はとても楽しみにしていました。

川沿いの、東京スカイツリーもすぐ近くに見えるという綺麗な景色の中にその研究所は建っていました。研究所は外も中も綺麗な白で、とても清潔そうでした。玄関で出迎えてもらい、中でお茶を飲みながら雑談をし、早速ライオン(株)さんの事業説明をしていただきました。

ライオン(株)さんは創業から124年が経過する日本屈指の企業です。その事業内容は多岐に渡り、オーラルケア(クリニカなど)、ビューティケア(キレイキレイなど)、医薬品など私たちの生活に欠かせないものを製造・

販売しています。また、近年は東南アジアにも進出されていて、中国や韓国、タイ、インドネシアなど、より多くの国と地域に販売しています。

次に、ライオン(株)さんのさまざまな商品、そして歴史を説明していただきました。商品説明の際に東南アジアのさまざまな国々で販売されているものを実際に見せていただきました。日本の商品とタイの商品の香りがかかっていたら、その違いに驚きました。タイの商品の方の香りは日本のより濃い印象を受けました。その国ごとの文化、宗教などによって微妙に異なっていて面白かったです。ただ、商品には「キレイキレイ」のように日本語が書かれているものもあります。日本製の商品は信頼が強いそうです。そのため、日本語が書いてあるとみんな買ってくれるようです。日本人としてとても嬉しいです。

先程、ライオン(株)さんは創業124年と書きましたが、その歴史は日本社会と密接に対応しています。ところで、社名の「ライオン」は何に由来しているのでしょうか。当時、「象印歯磨」、「キリン歯磨」のように動物名がついた歯磨剤が流通していました。そこで創業者の小林富次郎さんが粉ハミガキ「獅子印ライオン歯磨」を発売しました。ライオンは丈夫な歯を持っていて相応しいと考えたそうです。これがヒット商品になり社名も「ライオン」にしました。その後、子供用の歯磨き粉やアメリカへの輸出で事業を展開していきました。私が最も感銘したお話は「ライポンF」の発売です。1960年代の日本では寄生虫が付着した食べ物を食べて命を落とす人たちが多くいました。そこで、厚生省が中性洗剤で野菜を洗うことを推奨したそうです。そこで開発されたのが「ライポンF」です。この商品によってこのような人たちが激減したそうです。ライオン(株)さんは時代のニーズに合わせて商品を開発していくことによって成長してきたのだなと思いました。

そして、実際に研究所を見学させていただきました。最初に見学したのがファブリックケアの研究所です。そこにはたくさんの洗濯機が並んでいました。その数はなんと70台！ここで実際に洗剤がしっかり汚れを落とせるのかを見るそうです。また違う場所に移動するとそこには歯医者さんで見るとような機械がありました。ここでは歯ブラシ、歯磨き粉を使って経過観察をし、しっかり治るのか、予防できるのかを調べるそうです。さて、先程から、服の汚れや歯の予防のような話をしていますが、これらは誰の「服」で誰の「歯」なのでしょう。これらは全て実際に勤めている社員さんからもらいます。例えば、「1日中この服を着て返してください」や「3日間歯を磨かないでください」のように言われて、実際にそのようにし、実験のために必要な汚れの提供、または社員さんの歯を実験台にすることによって商品開発を進めているようです。少し驚きましたが、全体で助けあっていかないと研究は進んでいかないのだなと思いました。

研究所見学の後、企画管理部の梅澤さんから大学の研究と企業の研究の違いについて教えていただきました。企業研究はよく知らなかったもので、梅澤さんのお話は大変参考になりました。そして、気が付いたのは大学の研究と企業の研究が同じ研究は研究でも全然違うことです。特に内容・目的が大きく異なっているなと思いました。大学の研究は「サイエンスの追求」、私たちの生活とはあまり関わっていないことも多いと思います。しかし、ライオン(株)さんのような企業では結果的には商品にして生活で使ってもらわないといけないため、やはり生活に密着したものを取り扱っています。ここが1番の違いかなと思いました。他にもたくさんの違いがあり、驚くことばかりでした。

その後、ファブリックケア研究所の橋本さんも交えて、たくさん質問をさせていただきました。特に私の心に残ったものを挙げたいと思います。

Q.研究を途中で切り上げたことはありますか。

A.あります。ものになるのは10のうち1~3ぐらいです。ただ、うち(ライオン(株))では企画の段階でかなり詰めるので少ない方で、一般的には100のうち3つぐらいです。ただ、切り上げた研究でもデータがたまるので将来役に立つこともあるので無駄になることはありません。

感想.意外に多かったのでびっくりしました。しかし、無駄になることはない聞いてどこか安心しました。非常に納得しました。

Q.開発した素材や技術などを工場で作る段階で苦労することはありますか。

A.例えば同じものを作るにしても実験で作るのと工場で作るのとでは量が全然違います。そうするとかき混ぜる時間も熱が伝わる時間も異なります。それによる影響も考えなければなりません。

感想.大学では実際に製品にすることは無いと思われるので、企業ならではの貴重なお話だと思いました。

Q.新入社員の皆さんに求める能力は何ですか。

A.大学の研究をしっかりやってきてほしいなと思います。高い専門性を身に付けて、自分の強みを持って入社してきてほしいです。

感想.今まで大学の研究と企業の研究の違いについて書いてきましたが、やはり大学の研究も重要なようです。自分の強みを持つことで自信も得られるのかなと思いました。

今回ライオン(株)さんを訪問させていただいてたくさんのことを学ばせていただきました。特に大学研究と企業研究の違いを深く知ることができました。私も将来は研究者になりたいと思っているので教えていただいた、たくさんのことを胸に高校生活を有意義に過ごしていきたいと思います。本当にありがとうございました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

東京大学

研修2日目は東京大学のオープンキャンパスに参加しました。東京大学のキャンパス内はとても厳かで日本で最高の大学であるという誇りと伝統を感じられました。理学部で講義を2つ受けた後、理学部1号棟の最上階にある理学部天文学科のラボツアーを見に行きました。実は私は天文学系の研究者になりたいなと思っていました。そのため、そこで聞いたたくさん天文学にまつわるお話や東京大学天文学科についてのお話はとても参考になりました。

特に私は「天文学は何の役に立つのだろう」という悩みがありました。せっかくの人生、自分の好きなことを仕事にすればいいじゃないかと思う自分もいれば、人の役に立つ仕事に就くことで社会に還元すべきだという自分もいました。そこで、私は無礼を承知でそこにいた院生の方に思い切って聞いてみました。その人は少し笑ってこう答えてくれました。「そういう考えはとても大切です。そしてこれはあくまで自分の意見ですが聞いてください。まず最初に天文学は昔は数学や物理学の基礎でした。今は逆になっていますが、昔は天文学で数学や物理学を解き明かしていました。今でもそういうところは残っていると思います。なので天文学のすべてがすべて無駄ではないと思います。そして、話は変わりますが、「人の役に立つ」ってどういうことなのかなって考えるんですよ。世の中の仕事って全部が全部完璧に役に立っている仕事って1つもないと思うんです。だから、天文学者も1つの重要な仕事で、胸を張ってしっかり仕事していればそれでいいんじゃないかなって」

とてもありがたかったです。私の中で大きな心の支えになりました。そしてやっぱり天文学者になろうと心に決めました。本当に大きな言葉でした。これをモチベーションにして勉強に励んでいきたいです。

とても良い経験になりました。